

東濃中部の医療提供体制検討会における検討結果の概要

東濃中部の医療提供体制検討会における結論（今後の具体的な方向性）

- 東濃中部では、約400床程度の急性期（高度急性期を含む）・回復期病床数が適当（現在供給過剰）で病床整理が必要である。
- 整理の方向性として、1病院化が最も適当である。
- 再編（1病院化）の手法については、引き続き三者（土岐市・瑞浪市・JA岐阜厚生連）で継続協議する。
- 再編（1病院化）までの間、両病院（土岐市立総合病院・東濃厚生病院）が協力してネットワーク化（病床機能分担）を図る。

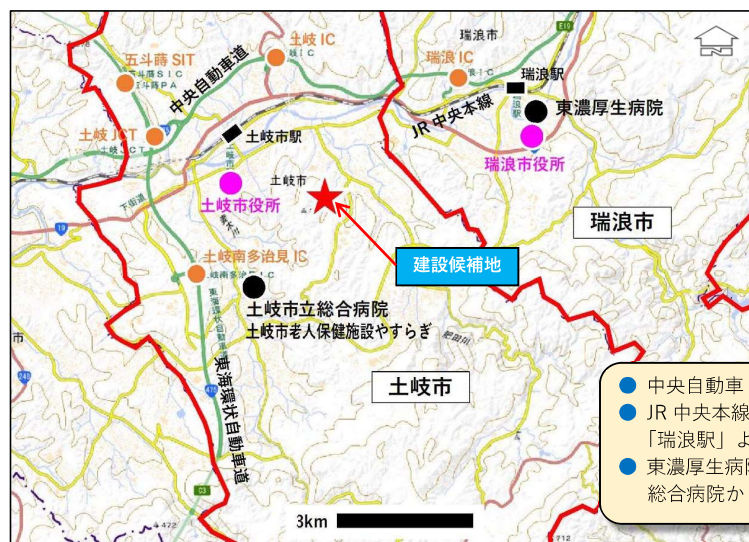
資料：東濃中部の医療提供体制検討会検討結果報告書（平成30年2月）

土岐市・瑞浪市・JA岐阜厚生連の三者での意見統一

- 新病院の建設位置は中間地点を基本とし、経営手法は土岐市・瑞浪市による公設、厚生連による民営とする。
- 設置主体となる公的機関の設置に向けた協議を行う組織を、土岐市及び瑞浪市が共同で設置する。
- 新病院の運営に係る計画等を踏まえた構想の作成については、土岐市・瑞浪市・厚生連で協議を行っていく。
- 新病院開設に必要な用地買収、施設整備などについては、土岐市と瑞浪市の両市が共同設置者として、また、厚生連は病院統合の当事者として、それぞれ応分の人的、財政的な負担をすることとし、詳細については今後の協議とする。
- 新病院が設置されるまでの間は、土岐市立総合病院と東濃厚生病院の間で機能分担をできるかぎり早急に進めていく。

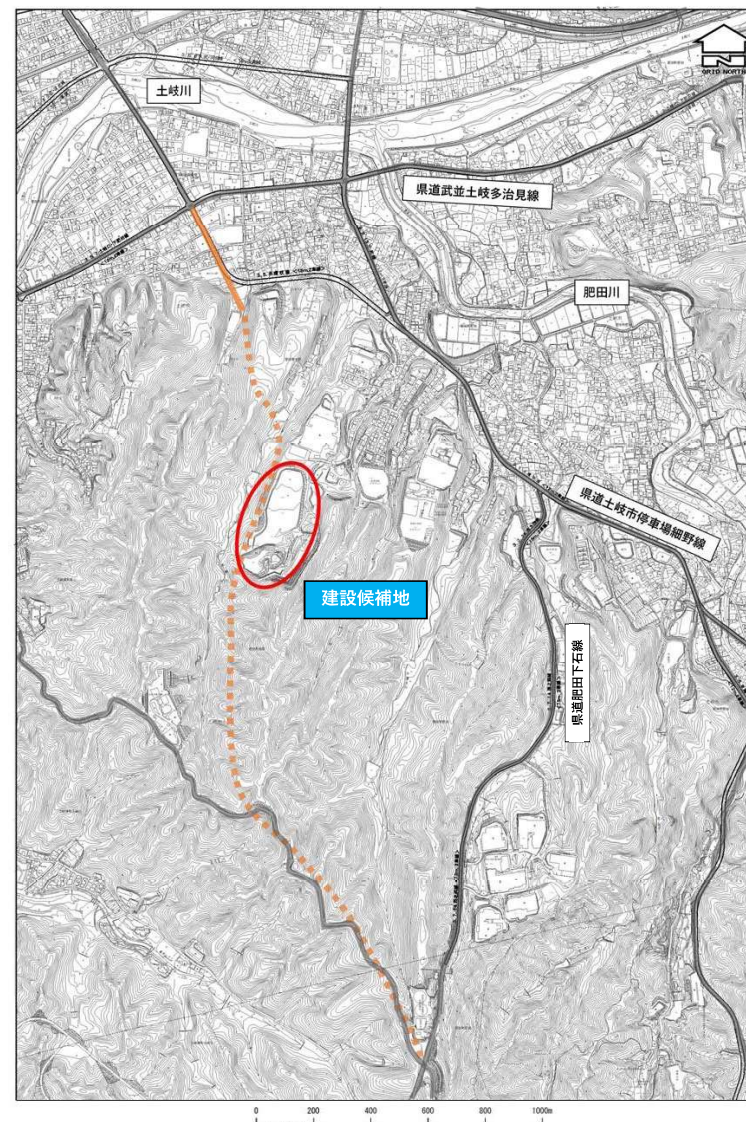
資料：■第9回 東濃中部の医療提供体制検討会 議事概要（抜粋）（令和2年3月）

病院建設候補地の広域的位置



- 中央自動車「土岐 IC」より約3km
- JR 中央本線「土岐市駅」より2km、「瑞浪駅」より約5km
- 東濃厚生病院から約5km、土岐市立総合病院から約2.5km

病院建設候補地周辺の位置図



病院建設候補地の概況と主な課題

項目	概況
敷地面積	・約 8.0ha
地形・地質	・標高 200m 前後の平坦地で、地形分類では「盛土地・埋立地」「切土地」 ・地質は「礫質堆積物及び砂」及び陶土原料として利用されている「シルト・粘土（火山性砕屑物を含む）」
土地利用・建物現況	・ほぼ全域が荒地、他は山林で建物の立地は見られない ・土砂採取跡地で地内には補償対象物や配置上での支障物等はない ・土砂採取時の仮設施設（沈砂池）が残存 ・北東には工場や民家等が近接して立地
土地所有状況	・全域が官地
関係法令	・用途地域外の無指定地 ・北側一部を除き、大半が森林計画区域（地域森林計画対象民有林） ・全域が砂防指定地、鳥獣保護区、北側一部が宅地造成工事規制区域に指定
周辺道路状況	・北東側は県道土岐市停車場細野線から約 700m に位置 ・県道土岐市停車場細野線までの区間の市道沿いには民家等が集積 ・西側からのアクセス道路は無い
下水道・排水状況	・下水道（計画区域）には含まれていない ・西側には狭間川が土岐川へ、東側には馬沢川が肥田川を經由して土岐川へ流下
災害履歴・災害想定	・外水・内水被害や土砂災害などの災害履歴は無い ・洪水浸水による災害想定も無い

概況結果

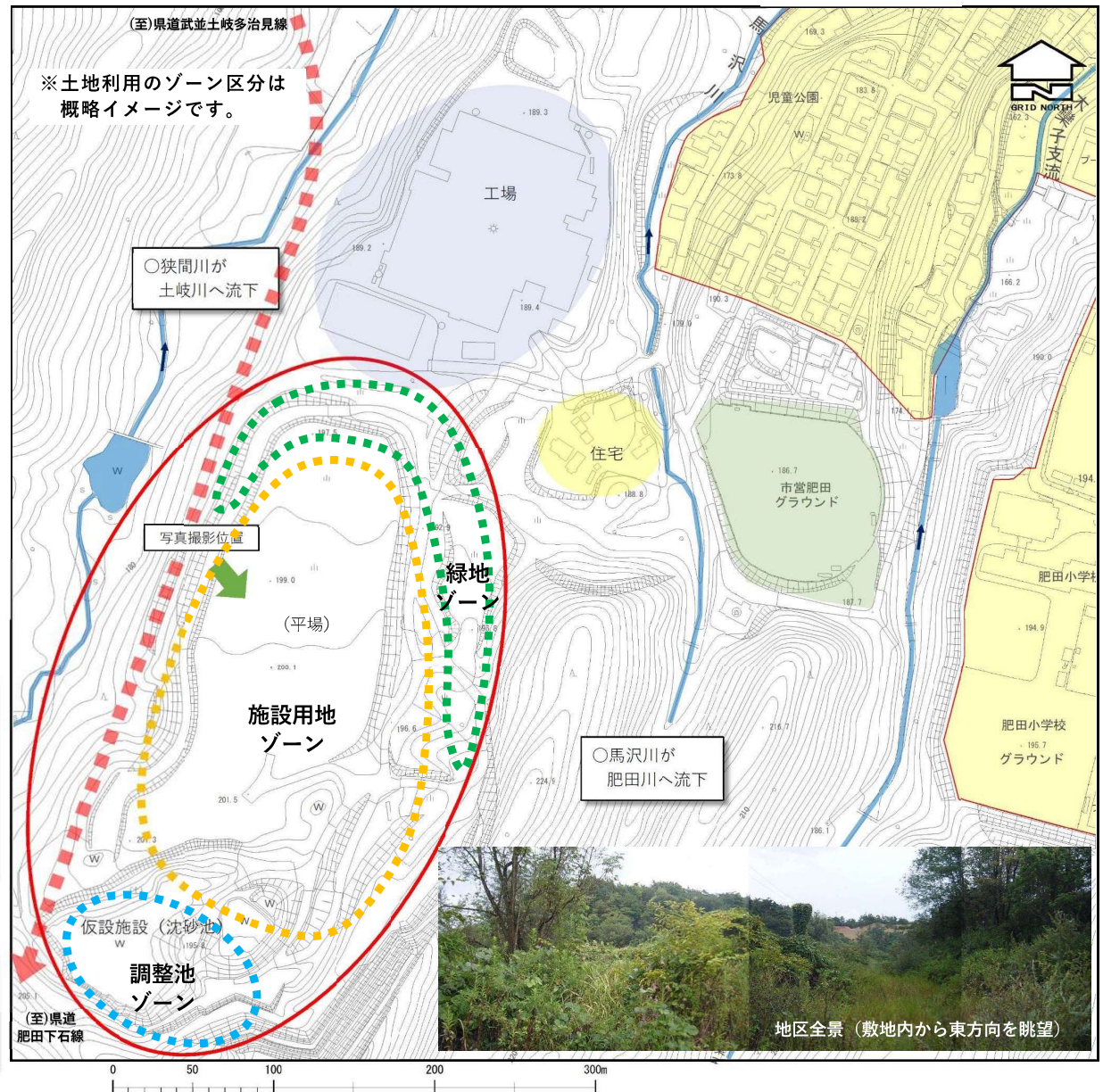
- 敷地は広く有効平場も大きい
- 敷地全域が官地で地権者対応が不要
- 補償対象物や支障となる施設等はなく、施設配置の柔軟性は良好
- 関係法令では許認可の手続き上での難度は無い
- 全体が整形な平坦地で、残存する沈砂池の造成形状なども考慮すると造成にかかるコスト負担は小さい
- 土砂災害や浸水等の災害リスクが無い

主な課題

- 新設整備によるメイン進入路の確保が必要 →
- 南側の沈砂池は開発後の調整池利用に可能と考えられるが、流末の流下能力等の検討が必要

建設候補地の概況図及び現況写真

(至)県道土岐市停車場細野線



地区全景（敷地内から東方向を眺望）